





# 高病原性鳥インフルエンザウイルスの侵入防止について

昨年度の冬季シーズンにおける国内の高病原性鳥インフルエンザ発生状況は、18 県 52 事例、殺処分羽数は約 987 万羽となり、過去最大規模の被害となりました。農林水産省による高病原性鳥インフルエンザ発生農場における疫学調査結果では、防鳥ネットの不備や壁・天井の隙間といった野生動物対策、衛生管理区域出入口での車両の消毒不十分、衛生管理区域および鶏舎出入口での手指消毒・手袋交換・長靴交換の不十分が示されました。

鳥インフルエンザだけでなく、様々な家きん疾病による被害・損失を防ぐためにも飼養衛生管理基準の遵守は極めて重要です。日々の飼養管理のなかで、基準項目の確認・点検と、その記録を継続してください。また特に施設や消毒施設などに不備を認めた場合は、迅速な補修対応等をお願いします。

高病原性鳥インフルエンザ発生農場における疫学調査を踏まえた飼養衛生管理状況

| 飼養衛生管理区域出入口   |             |          | 鶏舎出入口         |          | 野生動物対策   |                     |
|---------------|-------------|----------|---------------|----------|----------|---------------------|
| 基準13          | 基準14        | 基準15     | 基準20          | 基準21     | 基準24     | 基準26                |
| 手指消毒・手袋交換が不十分 | 衣服・長靴の交換不十分 | 車両の消毒不十分 | 手指消毒・手袋交換が不十分 | 長靴の交換不十分 | 防鳥ネットの不備 | 壁・天井の隙間             |
| 4/52          | 9/52        | 5/52     | 28/52         | 19/52    | 16/52    | ●: 40/52<br>▲: 9/52 |

- 注) 1. ●は、飼養衛生管理基準を遵守しているとは言えない事例。  
2. ▲は、隙間や破損はないが、ネズミのものと思われる糞、足跡、囓り跡などの痕跡があった事例。

昨年度の発生事例数  
(18 県 52 事例)

# 牛の暑熱対策について

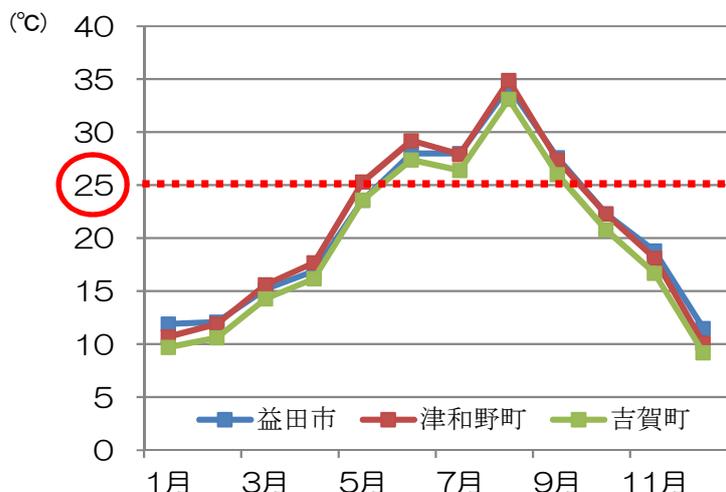


図. 地域別の日最高気温の推移 (2020年)

(出典: 気象庁HP)

梅雨が明け、お盆も過ぎましたが、まだまだ暑い日が続きます。牛の体調はいかがでしょう？

牛は 25°C を超えると暑熱ストレスを受け、乳量や増体・繁殖成績の低下につながります。左のグラフが示すとおり、最高気温が 25°C を超える日がこれからも続き、**9月までは暑熱対策が必要**となります。

対策として、飼養管理面では、新鮮な水の給与とビタミンの補給、環境面では、日よけの設置やファンによる送風、散水があります。各種対策を組み合わせると効果的です。できることから取り組んでみましょう。

編集後記：外に出ても暑く、なかなか遠出もできない状況なので、休みの日は一日中家にいることがほとんどで、読書の量が増えました。おすすめがあれば教えてください(門脇)。